

U.S. Indicators

発表日: 2022年12月2日(金)

米国 製造業部門の縮小も景気は拡大(11月ISM製造)

～米製造業の縮小は当面継続する見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

22年11月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、49.0(前月50.2)と1.2%p低下し、市場予想の49.7(筆者予想49.8)を下回った。供給制約の改善が続くもと入荷遅延が小幅上昇した一方、景気の先行き懸念で新規受注、生産、雇用、在庫が低下し、ISM製造業景気指数は低下した。水準では、20年5月の43.5以来の50割れとなり、製造業部門の縮小を示しているものの、米国景気後退時のレベルを依然上回っていることから、米景気拡大は継続していると判断される。生産、在庫が50台を維持した一方、景気減速に対する懸念を背景とした新規受注や雇用、供給制約の改善によって入荷遅延が50を下回っていることで、ISM製造業景気指数は米製造業部門の縮小を示す水準に低下した。そのような中、インフレの動向を示す仕入価格指数は50を下回ってさらに低下しており、コスト下落ペースの加速を示した。

11月の構成項目別の変化では、入荷遅延が上昇した一方、新規受注、生産、雇用、在庫が低下した。中でも新規受注は、輸出受注が上昇するなかで低下しており、国内受注が減少幅を拡大したとみられる。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、入荷遅延が前月比+0.08%pの押し上げ寄与となった一方、新規受注が前月比▲0.40%p、雇用が前月比▲0.32%p、在庫が前月比▲0.32%p、生産が前月比▲0.16%pの押し下げ寄与となった。

サブ項目では、輸出受注DIが48.4(前月46.5)と上昇したが50を下回っており、輸出の減少が示された。一方、輸入DIは46.6(前月50.8)と低下し、輸入の縮小を示した。他方、仕入価格指数は供給制約の緩和や商品市況の下落によって43.0(前月46.6)とさらに低下しており、インフレの低下が続いていることを示した。

11月の企業からの報告では、輸送機器は、受注が好調を維持したなかで、サプライチェーンの問題が続くものの生産量への直接的な影響は抑えられていると報告したほか、食品・飲料・タバコは消費財がいくつかの市場で減速しているが、米国経済はまずまずのように見えると指摘した。また、非鉄は、2023年に向けて懸念があるが、商業部門の建設は依然として好調と報告した。さらに、一次金属は、全体的なビジネス状況が前月からわずかに改善したと指摘した。

一方、コンピューター・電子機器は顧客の需要が弱まっているが、サプライヤーは価格上昇やコスト削減によって記録的な利益水準を維持していると指摘したほか、化学製品は今後60日間、取引量の減少傾向が続くと予想されると報告した。また、一般機械は経済の不確実性により、年末に近づくにつれて受注が鈍化しており、主要な顧客の多くが設備投資を削減していると指摘した。電気設備・部品は全体的に事業が悪化したと報告、プラスチック・ゴム製品は12月と2023年の第1四半期に、不確実な経済状況が予想されるため、事業が軟化すると報告した。

11月は、全18業種のうちアパレル・皮革、非鉄、一次金属、その他製造業、石油・石炭、輸送機器



の6業種の拡大にとどまり、10月の8業種から減少した（下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す）。主要6業種では、石油・石炭、輸送機器の2業種が弱くから緩やかに成長した。一方、縮小した業種は、印刷・関連サポート活動、木材製品、紙製品、繊維、加工金属、家具・同関連、化学製品、プラスチック・ゴム、コンピューター・電子機器、食品・飲料・タバコ、一般機械、電気設備・部品の12業種となった（10月10業種）。

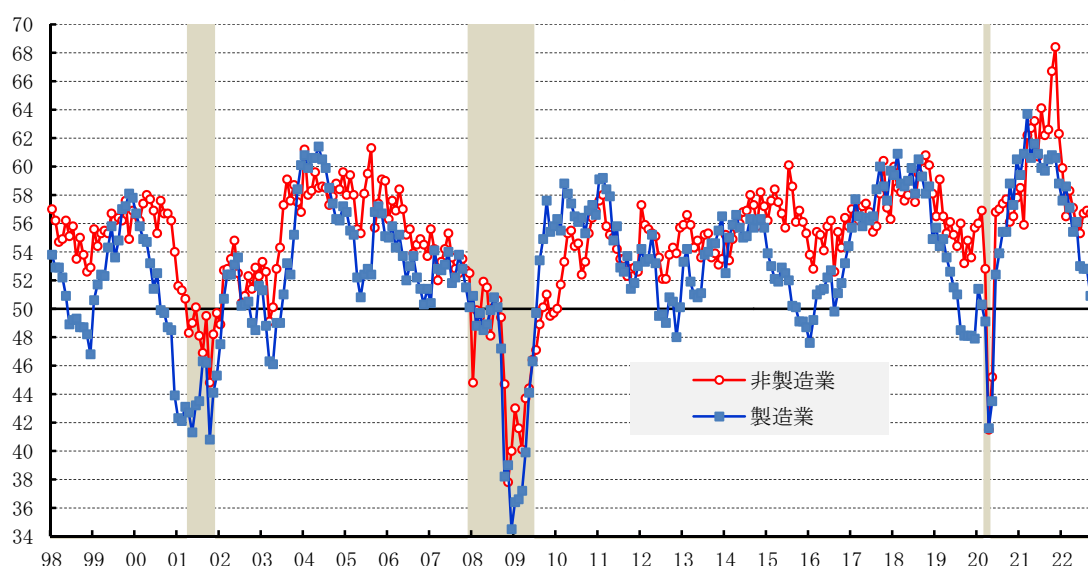
先行きに関して、新規受注が47.2（前月49.2）、受注残が40.0（前月45.3）と前月からさらに低下しており、今後も製造業部門が縮小を続ける可能性が高い。

I S M製造業景気指数

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
21/11	60.6	61.4	60.2	53.0	56.3	72.2	61.9	82.4	54.0	52.6
21/12	58.8	61.0	59.4	53.9	54.6	64.9	62.8	68.2	53.6	53.8
22/01	57.6	57.9	57.8	54.5	53.2	64.6	56.4	76.1	53.7	55.1
22/02	58.6	61.7	58.5	52.9	53.6	66.1	65.0	75.6	57.1	55.4
22/03	57.1	53.8	54.5	56.3	55.5	65.4	60.0	87.1	53.2	51.8
22/04	55.4	53.5	53.6	50.9	51.6	67.2	56.0	84.6	52.7	51.4
22/05	56.1	55.1	54.2	49.6	55.9	65.7	58.7	82.2	52.9	48.7
22/06	53.0	49.2	54.9	47.3	56.0	57.3	53.2	78.5	50.7	50.7
22/07	52.8	48.0	53.5	49.9	57.3	55.2	51.3	60.0	52.6	54.4
22/08	52.8	51.3	50.4	54.2	53.1	55.1	53.0	52.5	49.4	52.5
22/09	50.9	47.1	50.6	48.7	55.5	52.4	50.9	51.7	47.8	52.6
22/10	50.2	49.2	52.3	50.0	52.5	46.8	45.3	46.6	46.5	50.8
22/11	49.0	47.2	51.5	48.4	50.9	47.2	40.0	43.0	48.4	46.6

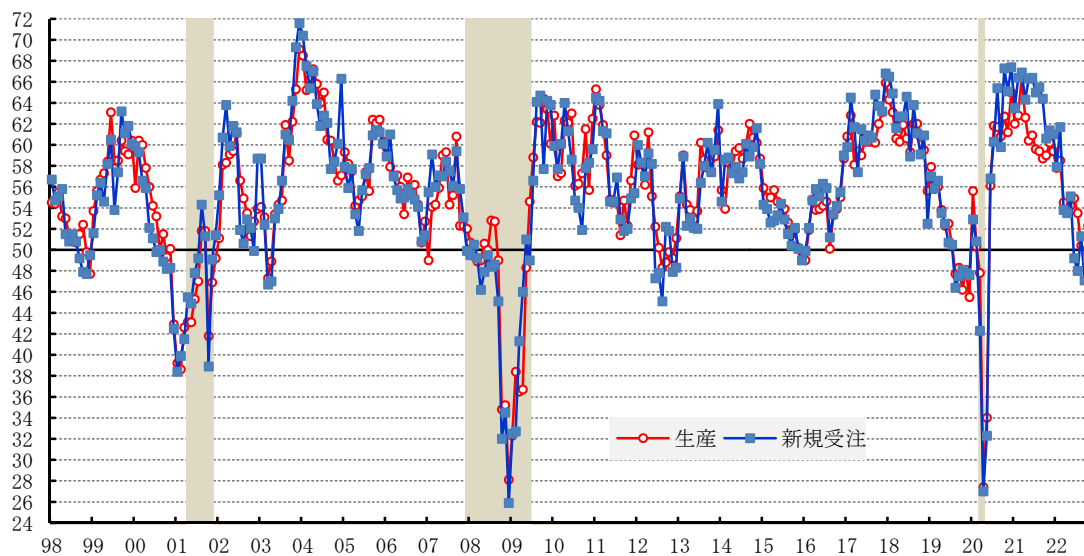
（出所）I S M : the Institute for Supply Management

I S M景気指数の推移



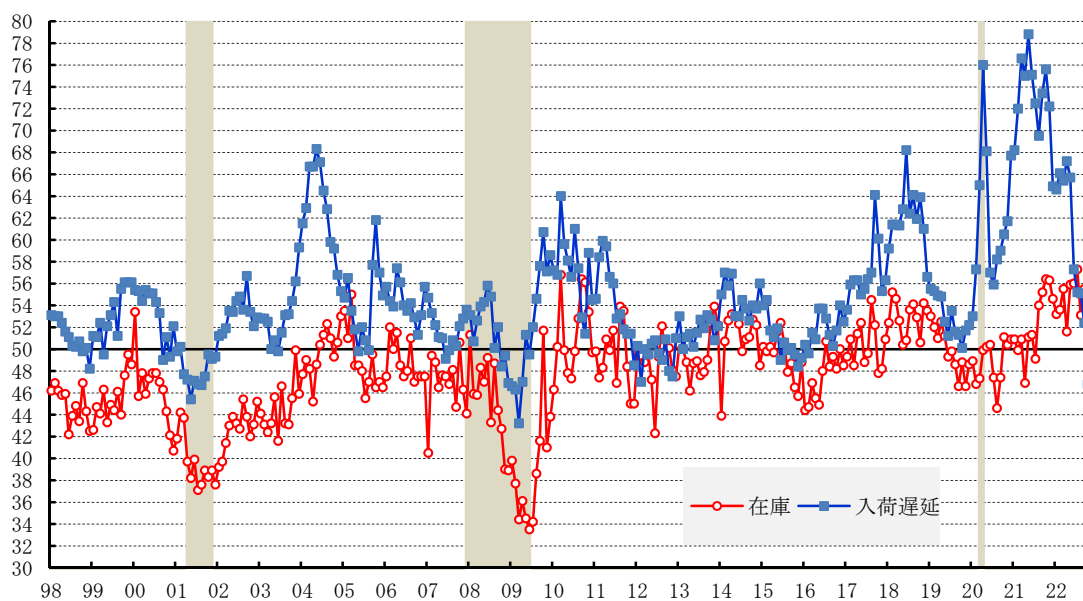
（出所）I S M （注）シャドー部は景気後退期

ISM景気指数の推移



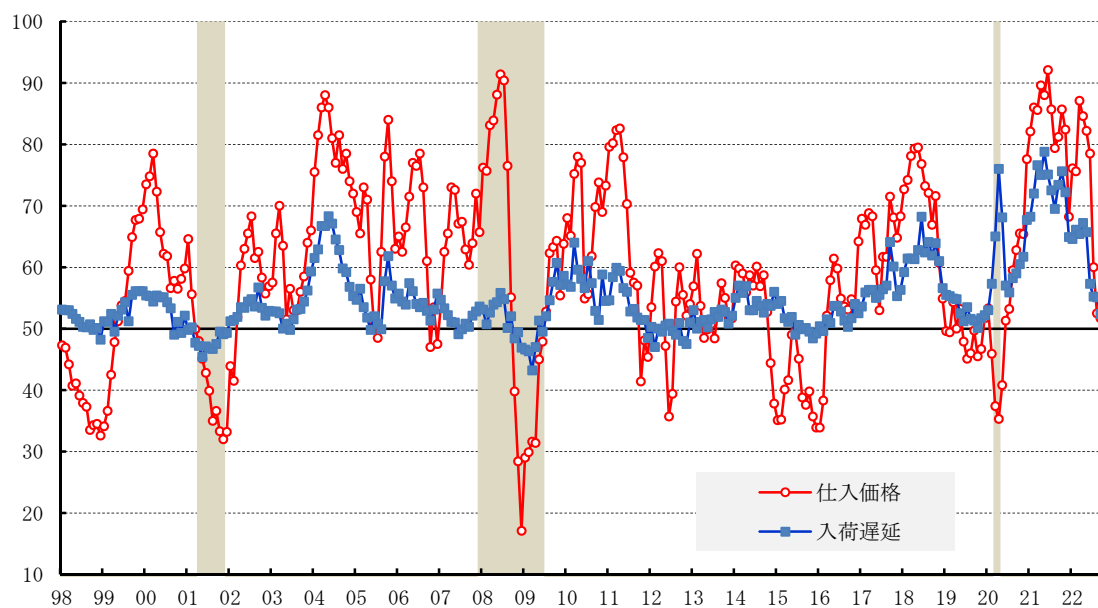
(出所) I S M (注) シャド一部は景気後退期

ISM景気指数の推移



(出所) I S M (注) シャド一部は景気後退期

ISM景気指数の推移



(出所) ISM (注) シャドー部は景気後退期

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

